

**テーマ：** 自然環境と災害

**関連の深いコース：** 環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

1. このテーマを学ぶために

地形や気候などの自然環境は、われわれのライフスタイルや「豊かさ」に大きく影響しています。日々の生活や社会活動、文化的営みが意識の中心を占め、自然環境は「水や空気のように」あたりまえの存在（＝意識しない）、という方もいるかもしれません。しかし、生活や文化、社会は、その土地のもつ自然的個性をベースとして成立しています。この点への理解なしに、持続可能な社会の実現は不可能です。

自然環境はわたしたちに多くの恵みを与えています。一方で、自然環境のもつ力によって、日常の営みが急に途切れることもあります。たとえば大地震など、突発的なハザードの時です。突発的ではなく徐々に進行するハザードもあります。このように恩恵と災害をもたらすダイナミックな自然環境のなかで「豊かに生きる」とは、いったいどういうことでしょうか。

「豊かさ」の評価は定性的にも定量的にも容易ではありません。しかし、個人に注目する際には「QOL」などの概念が提案されており、社会全体を考える場合も「持続可能性」という、次世代を見据えて現代社会のあり方を考える概念が提唱されています。そして、こうした「豊かさ」を支える鍵は、自然科学のみでなく、社会・地域、人文科学、法律・政治、経済・経営など多岐の分野にわたります。しかしながらあらためて強調したいのは、生活や文化、社会が、地形環境や気候環境など「土地の自然的個性」に裏打ちされて成立しているという事実です。重要なのは自然環境への理解を深め、そのうえで社会活動を営んでいくスタンスではないでしょうか。

災害に対する日常の取り組みも、決してマイナスを埋める作業ではありません。自然環境への理解に立脚して「もしも」に備える歩みは、個人のQOLあるいは社会の持続可能性を担保し「豊かさ」を下支える前向きな取り組みのひとつとして位置づけられます。すなわち、恩恵を享受し、災害で一網打尽にならない地域社会を、ハード・ソフト両者の長所短所と相補的役割、また時空間スケールや担い手を意識しながら、さまざまな価値観に目配りしつつ構築していく、ということです。

その意味でも、分布を把握し比較を行いながら地域的差異とその要因、歴史的変遷を理解し、分析的かつ俯瞰的な視野から物事を考えていく地理学的視点に立脚して、自然環境と災害について地域性と長期的視野を大切にしながら学びを深める意義はきわめて大きいと考えています。

2. テーマに関連した推奨科目

自然科学関連では、自然環境論、自然災害論、気候変動論、環境科学、自然環境政策論など、また社会・地域関連では、地域経済論、都市環境論、環境社会学、地域コモンズ論、災害政策論、科学技術社会論、フィールド調査論などでしょうか。日本環境史論や環境人類学、環境表象論、環境倫理学、エネルギー政策論など、人文科学や法律・政治、経済・経営関連の科目も多角的視点から考える礎になります。講義や演習など教室内での学びに加え、現場での学習や発見も大切にいただければと思います。